

現場ニーズ対応型技術開発

平成30年度予算額34億円
うち、新規課題7.6億円

- **農林漁業者、食品事業者のニーズを踏まえた明確な研究目標**の下、農林漁業者、企業、大学、研究機関等がチームを組んで行う、**農林漁業者や食品事業者への実装までを視野に入れた技術開発**を推進。

研究実施のプロセス

- ① **生産者の方々から、生産現場でお困りの技術的課題について御意見を伺います。**

茶工場の稼働量を平準化して、もっと処理したい



一緒に研究させて下さい！



- ② **明確な開発目標**を定めた研究課題を設定します。

生葉の低温保管管理技術

目標

現行に比べて
茶葉処理量を2割増加



- ③ **農林漁業者、企業、研究機関等がチームを組んで研究**します。



民間企業



農林漁業者



研究機関

新たに実施する研究課題の例

- ① **ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培管理効率化・安定生産技術の開発**



園芸作物等の生育情報・病害虫発生状況を把握するために**収集すべき情報・仕様を解明。**



【期待できる効果・ポイント】

✓ドローンの活用で、果樹において防除等の**栽培管理の労力を3割削減**

- ③ **成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発**

<イメージ>

植栽後10年目の状況



成長に優れた苗木(エリートツリー等)を活用した**低コストで高収益な施業モデルを開発。**

【期待できる効果・ポイント】

✓植栽密度や下刈回数の低減で**育林作業を30%低コスト化**

- ② **茶葉の低温保管システムと作期拡大を可能とする新規品種の開発**

<イメージ>



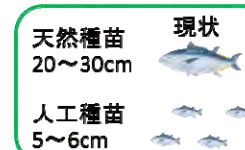
茶工場の稼働時間の延長を可能とする**効率的な荒茶生産体制を構築。**

【期待できる効果・ポイント】

✓ **茶葉処理数量の2割増加**
✓ 早生・晩生等新規品種の開発により**作期が拡大**

- ④ **クロマグロ養殖の人工種苗への転換促進のための早期採卵・人工種苗育成技術や低環境負荷養殖技術の開発**

<イメージ>



クロマグロの人工種苗養殖への転換に向け、**低コストで高生残な早期採卵・人工種苗育成技術を開発。**

【期待できる効果・ポイント】

✓ **人工種苗の生残率が現行の2倍**
✓ 現行の人工種苗と**同等な価格**の早期人工種苗を**作出**

今回再公募する課題

有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発

○かび毒及びその類縁体の蓄積防止・抑制技術の開発

<イメージ>



外見健全粒



赤かび病被害粒

外見が健全でもかび毒及びその配糖体等が蓄積する要因等を解明し、配糖体等類縁体を含めたかび毒の蓄積を抑制する技術を開発

↓
中程度のかび毒汚染に加え、配糖体の蓄積が新たに判明

↓
かび毒及び配糖体の蓄積を抑制する技術を開発

↓
高度のかび毒汚染

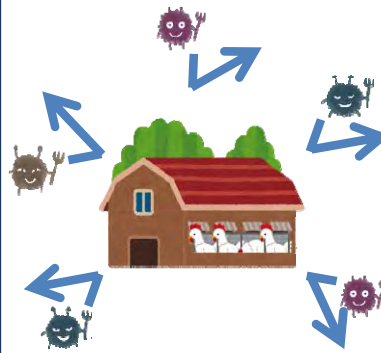
↓
選別で除去が可能

【期待できる効果・ポイント】

- ✓ 麦類を通じた消費者のかび毒による暴露をH29年試算時から1割以上低減
- ✓ かび毒の蓄積性を考慮した品種の開発や栽培指針の策定を推進

○畜産農場の食中毒菌に係る衛生管理対策の開発

<イメージ>



畜産物の安全性の向上

食中毒菌の農場や家畜への主たる汚染源を特定し、農場で実行可能な衛生管理手法を提示

【期待できる効果・ポイント】

- ✓ 食中毒菌の農場や家畜への汚染源を3つ以上特定
- ✓ それぞれについて、汚染低減対策を1つ以上提示
- ✓ 農場や家畜の食中毒菌による汚染防止・低減対策を生産衛生管理ハンドブックに反映